



社会福祉
法人

豊中市社会福祉協議会

ボランティアセンターだより

第 72 号 令和 2 年(2020 年)10 月 31 日

発行 社会福祉法人 豊中市社会福祉協議会

ボランティアセンターだより編集委員会

〒560-0023 豊中市岡上の町 2-1-15

TEL (6848) 1000 FAX (6848) 1005

URL: <http://www.toyonaka-shakyo-vc.org/>

E-mail: tcpvc@gold.ocn.ne.jp

コロナ禍でのボランティア活動について

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響にて、ボランティア活動も従来通りには行えず、ボランティアグループの皆さまも、グループごとに、何か活動できないかと試行錯誤しながら取り組んでおられます。今回は各ボランティアグループがコロナ禍の中で、今まで通りの活動ができない事への思いや、活動上の工夫などの状況を特集しました。

豊中アッシー（運転ボランティア）

アッシーの活動は、校区からの外出支援要請で始まります。最近ではコロナの影響で、中止になるケースも多く、利用者は激減しています。送迎の機会は減りましたが、感染対策には十分な注意を払い、安心送迎に努めています。例えば、利用の乗車は基本 1 名とし、発車前の検温や座席の除菌、窓開け換気などの三密対策です。サロンへの外出を待ちわびておられる、利用者の方の気持ちを思いながら、コロナ前に戻る日を私達も待っています。



出発前に車内の消毒



乗車前に検温



そよかぜ（子育て支援）

「そよかぜ」は本来の目的である子育て支援については思うように活動はできておりません。しかし、月一回の定例会開催、市社協ボランティアセンターぷらっとのお手伝いなどを行い、絆を深めながら早く活動が再開されることをまち望んでおります。コロナ禍の不自由な生活ですが、他者を助け、自分も助けていただく意識は常に持っていたいですね。「そよかぜ」に興味のある方は会員募集中です。

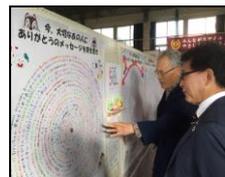
ズームイン（福祉ビデオ制作）

昨年から、市内の高齢者の皆さんから戦争体験などをお聞きする「ヒストリア」や「季節の歌体操」の DVD 制作も始まりましたが、新型コロナウイルスにより、グループの活動は中止せざるを得なくなりました。今年中の、グループの活動再開は難しそうですが、早く皆さんの活動を撮影に行けるようにと思っています。



ぐるぐるアート豊中世話人会

新型コロナウイルスの影響を受けて、校区の市民活動は全てストップ、長年に渡って培ってきた地域コミュニティが崩壊するのではと案じています。特に、小学校では、4月9日の入学以来、5月14日が新一年生にとっては初登校となり、子ども達が抱える不安や戸惑いを少なくする一助にと「ぐるぐるアート」を提案。秋の作品展に向けて全校生徒で作品づくりに取り組みました。また、機会を捉えては作品の展示会を開催。アート工房では希望者に教室を開催。市民活動情報サロンでは少人数の教室を開催。出前講座の受付もしています。



ぐるぐるアートを見学される
長内市長（昨年）



小学校での作品づくりの様子

講師は透明
のマウスシ
ールド着用



小学校での手話体験学習



定例会（フェイスガード着用）

豊中市手話サークル あさなぎ

今年度のサークルが始まったのは緊急事態宣言が解除された6月からです。利用させてもらっている施設に入る時にアルコールで手を消毒し障害福祉センターひまわりでは検温もしています。定例会をしている間は部屋の窓・ドアは開けて、空気循環のために扇風機も使っています。毎回参加者は25~28名くらいで、左右は1人分ずつ椅子を空けて前後は重ならないように交互に座り、皆がフェイスガードをして学習しています。

聴くの会（傾聴ボランティア）

希望された一人暮らし高齢者の元に電話を掛け、相手のお話に耳を傾け、つながりを深める活動をしています。今年は新型コロナウイルスの流行の為、3月~5月迄中止をしましたが、6月からやっと開始になり、お変わりなかったかな…元気だったかなという思いで電話を取りました。利用者の方々のお変わりのない声を聞きほっとしました。そして反対に「大丈夫でしたか」と私達に気を使っていたか共に元気である事を確認しました。趣味の話、家族さんの話、季節の話等をしながら絆を深めて参りますが、まだまだと思う毎日です。グループの皆と共に一歩一歩前に進み、利用者の方々から少しでも多く喜んで頂ける様努力したいと思っています。



利用者と電話でお話し中

NALC（ナルク）わかばの会豊中

緊急事態宣言が発せられた4月7日から、解除された5月23日まで活動を自粛しました。その後、毎月発行の会報で会員全員に新型コロナウイルス感染症の予防対策の記事を掲載して対応しました。6月の定期総会は書面決議し、施設ボランティアは施設毎の対応、同好会は全てナルクの事務所の中で実施しています。イベントは全て中止しましたが、個人の生活支援は個別対応をしています。



つぼみ（青少年ボランティアグループ）

コロナの影響で月 1 回の定例会もなくなり、メンバーのボランティア活動や近況の報告を聞くことができず寂しいです。また、ボランティア募集も少なく「時間に余裕があるのにボランティアができない」もしくは「自身のことで精一杯でボランティアどころではない」等、メンバー各々ジレンマを抱えながら過ごしていると思いますがコロナに負けず、早くボランティアに参加できるようになることを願っています。



コロナ禍で集まれない中、「みちしるべ」から「うぐいすの会」（失語症当事者・家族の自主グループ）のメンバーへ送ったメッセージ入り絵葉書。

みちしるべ

新型コロナウイルスにより 3 月からボランティア活動が全面的に休止。みちしるべは主に小中学校でのボランティア体験学習の指導と、高齢者施設での行事手伝いだったため、10 月現在まで全く依頼が無い。当初 5 月までは例会を休みにしていたが、6 月から定例会を開催。この間特に体調を崩されているメンバーはいなかったが、毎回 7~8 人が出席し近況報告等、和やかな時間を過ごしている。その後、ボランティアセンターから依頼の仕事を手伝うこともあり、今後も毎月の定例会を継続開催していく。

点字サークル つくしんぼ

今年はコロナ禍により、千里コラボが使えるようになるまではメンバーが集まることができませんでしたので各自、自宅での点訳作業のみとなりました。毎年春に行っていた初心者教室も開催することができませんでした。千里コラボが開館となり、9 月からは来年度の点字カレンダーも通常通り作成に取り掛かっています。学校からの体験学習依頼について、点字はどう対応していくか悩ましいところです。



感染症対策をしながらの活動



賑やかだった
こども食堂（昨年）

更生保護女性会「かるがも食堂（こども食堂）」

2 月を最後に休んでいます。感染予防を第一と考え、再開できる日をスタッフ一同心待ちにしています。早く元気な皆さんにお会いしたいと終息する日を待っているところです。その為に、手洗い、うがい、マスク着用、消毒など出来ることを習慣づけ、うつらない、うつさないを心に暮らしています。そろそろ何かできないかと模索中です。再開を楽しみにしています。



ステッキ（高齢者介護支援）

高齢者の援助を活動の中心にしたグループですので、まったく活動はしていない状態です。定例会を開くのもままならないので、メンバーの思いが途切れないように、社協のお手伝いをし、つながりを切らさないようにしています。



市社協ボランティアセンターでの作業のお手伝い



人数を制限して活動中

いきいき歌体操さわやか

市社協の「活動再開の指針」にもとづいて、定例会を8月から始めています。歌を歌うことの制限で大きな痛手を受けましたが、懐かしい曲の音楽鑑賞にプログラム変更しています。待ちわびた皆さんも「よかったね」と静かな体裁を楽しんでいます。施設などへのボランティア活動は控えています。

アクセス（ホームページ作成）

ボランティアに関する情報をより多くの人々に呼びかけることを目的に「市社協ボランティアセンター」のホームページを作成・更新しています。最近では新型コロナウイルスの影響で色々な制約の中、会話をする時は「三密」になるので、対策としてリモート会議が出来る「ZOOM」というツールを活用すれば接近もなく、場所も会議室等を利用しなくてもコミュニケーションを取ることが可能です。どのように活用すれば、活動作業が円滑に実行できるのか、手探りで研修・研鑽中です。パソコン・スマホの使い方をもっと勉強していかなくては、今のままではとても実現が難しいのが現状です。



ZOOMの勉強中

手作り介護用品 紹介



ビーズクッション



食食用エプロン



介護用パジャマ



リハビリ用にぎりっこ

小さな手（手作り介護用品作成）

「小さな手」は介護用品や、介護者(家族)の会の方に年に1度プレゼント等を作成しています。新型コロナウイルス感染拡大の為、3月から活動は休止しています。緊急事態宣言解除後、まだまだ不安の中、これからの方向性みんなで相談する為に一度集まることになり、11名が集まってくれました。話し合いの結果、しばらく活動を休止する事になりましたが、皆さんお元気でまた会えるのを楽しみに活動再開を心待ちにしています。

◎活動に興味のある方はお問合わせください。

※市社協ボランティア団体連絡会には今回ご紹介のグループも含めて計43団体が参加しています。

☆お問合わせ

豊中市社会福祉協議会ボランティアセンター「ぷらっと」
豊中市岡上の町2-1-15(豊中市すこやかプラザ2階)

☎ 06-6848-1000



令和 2 年 7 月豪雨災害への支援

～タオル・雑巾の寄付報告～

令和 2 年 7 月に襲った記録的豪雨により、熊本県、大分県、山形県などで甚大な被害を及ぼしました。

そこで豊中市社会福祉協議会では、7月6日～7月31日にかけて、ボランティア団体連絡会 参画団体、校区福祉委員会、民生児童委員会、老人クラブなど、たくさんの団体の皆さまと市民の皆さまより、泥出しなどで利用できるタオル・雑巾の寄付を募り、被災地に支援物資として送付させていただきました。

ご寄付いただきましたタオル・雑巾の総数は 8,642 枚にのぼり、集まったタオル・雑巾は熊本県 3 か所、大分県、山形県に送付させていただきました。ご協力ありがとうございました。

また、送付作業では市社協災害支援ネットワーク参画の市社協登録ボランティアグループの皆さんにもお手伝いいただき、仕分けや、箱詰めなどを、三密にならないよう少人数で何日かに分けながら、作業をしていただきました。



少しでも早く届けられるよう奮闘中！



みなさまからの想いもこめながら箱詰めし、被災地へ



～災害活動支援金 募金報告～

令和 2 年 7 月豪雨災害活動支援金として、豊中市社会福祉協議会では募金の協力を募っています。募金箱は豊中市社会福祉協議会窓口（すこやかプラザ）、各地域福祉活動支援センター、福祉の店「なかま」、びーの×マルシェに設置中です。

お預かりした募金は被災された方への活動の支援金として中央共同募金会の「令和 2 年 7 月 3 日からの大雨による災害に伴うボランティア・NPO 活動サポート金」（災害ボラサポ・令和 2 年 7 月豪雨）へ送金いたします。

令和 2 年 9 月末時点で総額 168,100 円を送金することができました。みなさまからの温かいご協力ありがとうございます。

※引き続き募金を受付致しております。



イラスト作成ボランティア

～ひとり暮らし高齢者に
メッセージカードを送ろう～

新型コロナウイルスの感染拡大で、家にこもりがちになっている方も多いのではないのでしょうか。そんな方々へ少しでも元気や誰かが見守ってくれているという安心感をお届けできればと思い、ボランティアの方々の協力で、豊中市ひとり暮らし老人の会のみなさまへメッセージはがきをお送りしました。



ボランティアの方々には、密を避けるために、ご自宅でイラストをかく人、会議室に集まって宛名書きやイラスト、メッセージをかいてはがきを仕上げる人、それぞれにご協力をお願いしました。「ずっと家で過ごす中、イラストを描くことでボランティアに参加でき、自分自身が元気をもらいました」とたくさんのイラストを持ってこられたボランティアの方もおられました。1枚1枚に思いをこめて作成したはがきは、9月中旬に1,027名の方に送付させていただきました。はがきを受け取った方からはお礼の電話や返信のはがきをいただいています。ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました！

手作りマスク作成ボランティア

ボランティアの皆様にご協力いただき、外出自粛期間中にそれぞれのご自宅で手作りしていただいたマスクを高齢者などの見守りが必要な方にお届けしたり、こども用マスクは市内の小中学校等にお届けしました。手作りマスクの枚数は約2,000枚にのぼりました。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。



〈ボランティアに興味がある方は〉

① ボランティアセンターで登録

ボランティア活動の紹介や登録後は毎月ボランティア募集をご自宅に送付します。

※登録用紙に必要事項記入するだけで登録できます。

※登録後、興味がある活動があればボランティアセンターに問い合わせください。依頼先と調整します。

② ボランティアメールの配信登録

メールでボランティアの講座や関連するイベント情報などをお知らせしています。

登録方法は、下記のURLまたはQRコードから登録いただけます。

<https://service.sugumail.com/toyonaka-city/>

※登録申込は無料ですが、登録・メール受信にかかる通信料はご負担ください。



編集後記

新型コロナウイルスでの自粛生活。連続する真夏日。心が崩れそうな日々。コロナに罹患した方や医療従事者への偏見と差別。ボランティア活動の出来ない哀しみと苛立ちを、澄んだ風が涼やかに、虫の音が癒してくれます。出来ることに制限はありますが、みんなつながっている。みんな笑顔で。
(ステッキ)